

火山に至るマグマ上昇経路と震源域との関係

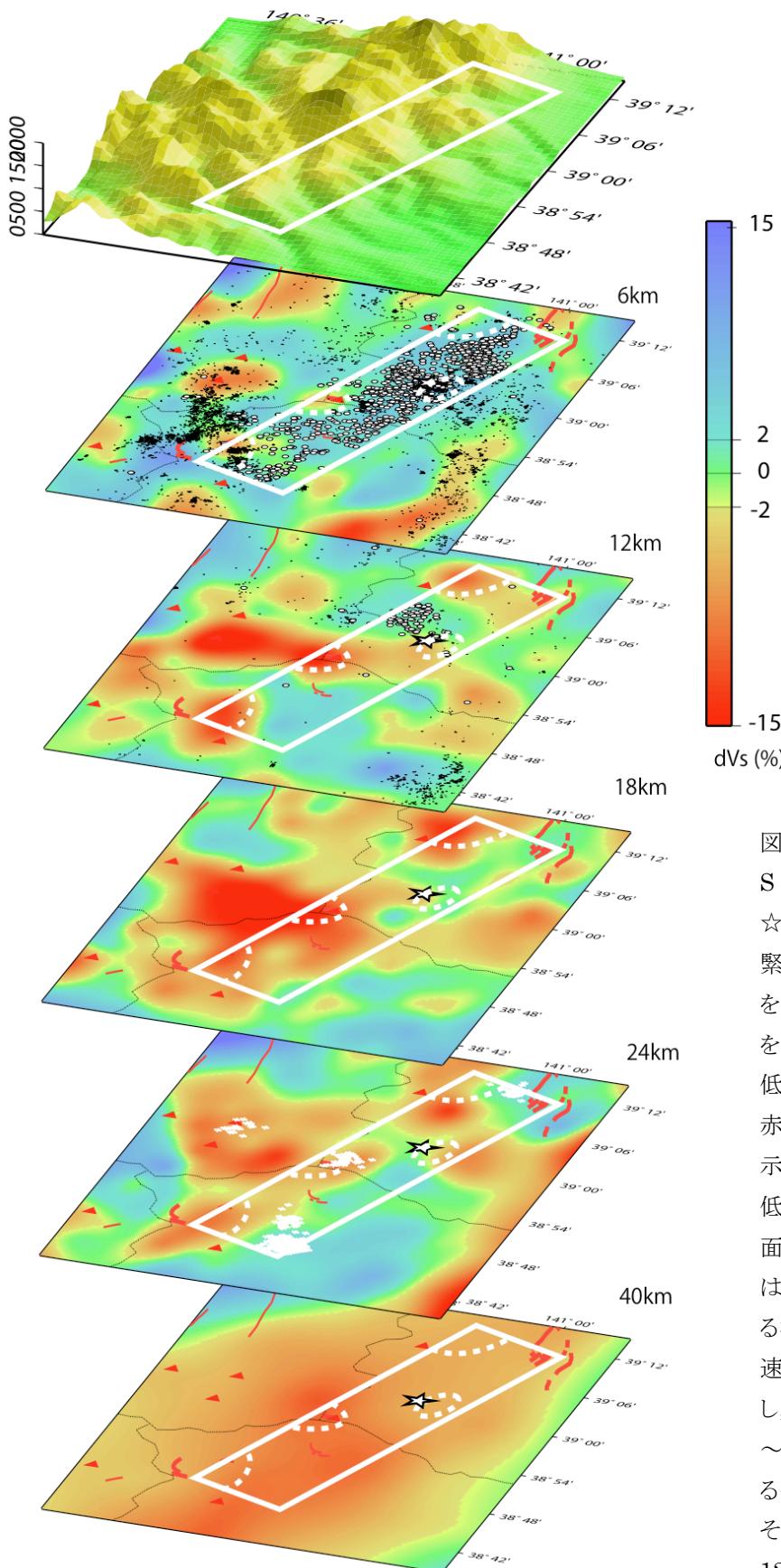


図4. 岩手・宮城内陸地震震源域における S 波速度偏差分布(岡田・他, 2008). 白☆, 白○は, 2008 年岩手・宮城内陸地震緊急観測グループによる本震および余震を示す. 白矩形は余震域のおよその広がりを示す. 破線で囲った領域は余震活動が低調な領域を示す.

赤△は第四紀火山を, 赤太線は活断層を示す. 深さ 24km の図における白十字は低周波微小地震を示す. 深さ 40km, モホ面直下に達した上昇流は, 深さ 24km では, 火山フロント直下と東方に分岐している様子がみられる. 火山フロント直下の低速度域は浅部にいくにつれ, さらに分岐し, おののの活火山の直下にいたる(18 ~ 6km). 震源域・余震分布は浅部におけるそれらの低速度域を避けるかのように, その間の高速度域に分布する(深さ 12km, 6km).